

# 家庭菜園相談室

## 今月のテーマ

## 食べ応え十分の落花生を育ててみよう

落花生は、「花が落ちて実が生まれる」から名前が付けられました。落花生の花は受粉後、枯れた花の付け根から子房柄しほうへいが下向きに伸び、土の中にもぐっていきます。そして、深さ3~5㍍に達すると、子房柄の先が膨らみ始め、そこにサヤができ、そのサヤの中で豆が育ちます。

最近では、食べ応えのあるジャンボ落花生が人気です。掘りたてを塩茹でし、食感と風味を楽しみましょう。



図1 作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
落花生	▲	▲	-----	-----	-----	-----	■ ■ ■	■

▲ 播種    ----- 追肥・土寄せ    ■ 収穫

### 栽培のポイント

- 種まき後は鳥よけネットを! 草丈が10㍍程度になれば鳥の被害の心配はなくなります。
- 多日照を好み、15~25℃の気温でよく育ち、15℃以下では生育しなくなります。
- 子房柄が伸び地中にもぐって結実するので、西濃地方の粘土質の畑では、収量・品質が悪くなる傾向があります。初めて栽培する方は、プランターに水はけの良い土(軽い火山灰土や砂質土)を準備するとよいでしょう。
- 連作は避け、2~3年は栽培していない畑で栽培します。

**畑の準備**：種まきの2週間前に苦土石灰200㍉/㎡をまき、深さ30㍍位までよく耕します。  
種まきの1週間前に完熟堆肥2㍉/㎡と化成肥料(8-8-8)100㍉/㎡を施し土とよく混ぜます。

**畝作り**：畝幅70㍍、畝高10~15㍍の畝を作ります。

**種まき**：種まき前に直径5㍍深さ2~3㍍の種まき穴を約30㍍間隔に作ります。サヤから子実(タネ)を皮付きのまま取り出します。そのタネを2~3粒まき、2~3㍍くらい覆土した後、水やりします。鳥害防止のため本葉2枚になるまで防虫ネットや不織布で覆っておきます。本葉2枚ほどで2株に、3~4枚で1株に間引きします。

**追肥・土寄せ**：開花しだしたら追肥として、化成肥料(8-8-8)30㍉/㎡を施します。軽く耕してから根元に土寄せします。その後、子房柄が土に沢山もぐるようになったら(1回目から15~20日過ぎ)再度土寄せします。土が乾いたら適宜水やりします。

**病虫害**：コガネムシやアブラムシなどの害虫が発生しますが、早期発見、早期防除に努めます。コガネムシは、播種時にダイアジノン剤粒などを土壌に混ぜ込んでおくのと良いでしょう。病害には、灰色カビ病、黒渋病、褐斑病などがあります。早期防除に努めましょう。

**収穫**：茎や葉が黄ばみ、一部下葉が枯れ始めたら試し掘りをし、サヤに網目が出始めていたらサヤがおおむね肥大したころなので、子実は多少未熟ですが収穫できます(10月中旬頃)(子実をサヤごと塩茹でて試食しましょう)。その後、かなり下葉が枯れ始めたらサヤの網目のはっきりし、子実は完熟してきますので、保存用に収穫します。完熟収穫後、株を畑に逆さまに立てて数日間日干しし、サヤがカラカラと音がするようになったら終了です(カラスなどに食べられないように、ネットなどを被せましょう)。その後、サヤをとって水洗いし、再び天日乾燥させると長期保存ができます。時間をかけて乾燥させることで、渋みが抜け、風味と甘みが増します。